

長野県革新懇ニュース

2019年7月号
発行日7月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971

242

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 羽田雄一郎さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 ソウルで画期的な国際フォーラム開催
大北森林組合等補助金不正住民訴訟裁判、読者の声
- 4面 随筆「雨よ降り」「『そのまま』が好き」窪島誠一郎さん
映画評論「誰がために憲法はある」内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

検索



1967年、衆議院議員・羽田孜氏の長男として生まれる。1992年、玉川大学文学部芸術学科児童専修課程卒業、保育士資格を取得。同年4月、伊藤忠記念財団に勤務。1997年、羽田孜氏の秘書。1999年10月17日の参議院長野県補欠選挙で初当選。以後、国土交通大臣などの要職を歴任。現在、国民民主党役員室長。当選4回。

憲法9条の改定には 体を張って反対する

羽田雄一郎さん
(参議院議員)

統一候補に選ばれ
心から感謝

Q 参議院長野県選挙区の統一候補として今度の選挙に臨むわけですが、今の決意のほどをお話し下さい。

ここに来るまでに紆余曲折もあり、1年ぐらいかかったわけですが、ようやく皆さんにご理解をいただき、安倍自公内閣を許してはならないということ、私を統一候補として選んでいただいたことに心から感謝申し上げます。選ばれたからには勝たなければいけません。やっと32の1人区すべてで市民の皆さんと野党の協力が決まりましたので、唯一の現職候補をもつ長野県でしっかりと勝利して、多くの同志が当選できる基盤をつくっていききたいと思っ

対応を見直した
靖国参拝問題

Q この間の羽田さんの発言を見ると、色々な点で気配りをされているように思えますが、その点はいかがでしょう。

一つは靖国参拝問題への対応だと思えます。これについてはずっと取り沙汰されてきているんですが、率直に言って、あまり意識をしないで過ごしてきたというのが経緯です。実は、子どもの頃からずっと父親に連れられて行っていたということ、小さい頃の住まいが九段の議員宿舎で靖国神社の裏にあったものから、あそこは遊び場だったんです。だから、あまり考えもしなかったわけです。

でも安倍さんが総理大臣になって、変わってきたんですよ。国会も開かれない中で、集団的自衛権の行使を解釈で変更し、それに伴う安保法制の強行です。これには多くの国民が反対し、大雨の中でも多くの皆さんが国会を取り囲んで、大渋滞になったわけですが、あんな光景は私も生まれて初めて見ました。安保法制の強行採決により、同盟国であるアメリカが始めた戦争に参加する国になってしまった。あの時に「ちょっと待てよ」と思ったんです。今まで

余裕がなかった
前回総選挙への対応

Q 前回の総選挙の際の経緯についてもお聞かせ下さい。

実は、前回の総選挙の在り方について十分検討を加える余裕がなかったというのが本当のところ。前原さんが急に希望の党に合流するという方針を出されたわけですが、参議院は民進党に残ったわけです。実は、寺島さんが民進党の時は私が交渉をした、比例の北陸信越ブロックの1位になると一時決めました。そこまでは私の仕事です。けれども寺島さんも井出さんも含めて、皆が希望の党に行っちゃった。その結果、希望の党の方針で結局、寺島さんが4区に行くことになったわけです。実は、私は4区に行くという決断がされた場にはいないんです。

ただ、あの時に排除という言葉があったわけですから、そんな政党とは一緒にできないと言って、本来であれば蹴っ飛ばして、もう一度立て直して民進党でやればよかったんです。民進党に残ったメンバーが希望の党に行こうとしていたメンバーに戻って来てと言った踏み止まらせればよかったのですが、そこまでやる力が参議院にはなかった。ですから、そこは苦しかったですよ。

結局、排除という論理のもとで、希望の党の中で民主主義の流れがやられていられるかと言え、やられていられないわけです。その結果、希望の党を脱会して我々に合流したんです。国民民主党は、希望の党の影を背負っているように思われている方がいるのがちょっと残念ですが、私たちは民主主義の流れを汲んだ唯一の政党だと自負しています。

憲法は国民のもの
議員のものではない

Q 安倍首相がすすめる憲法9条の改定について率直なお考えをお話し下さい。

自民党が何をめざしているのかといえば、自衛隊を国防軍に変えようとしているわけですから、こんなことは絶対許してはいけません。私は体を張ってでも反対しなければいけないと思います。

そもそも憲法改正については私が20年間言い続けているのは、憲法は国民のもので、議員のものではないということです。我々は国民に選ばれて国会に出て、国家権力を与えられて立場ですから、それを遵守するのが私たちの使命です。だから、安倍総理が憲法改正を言うこと自体が間違っていると言っています。日本は戦争に負けて、憲法で不戦の誓いをして、ずっと74年間平和な国を築いてきました。先人たちが繋いでくれた、この平和を子どもたちや孫たちの時代に繋ぐのが我々現役世代の使命だし、責任なんです。それが今安倍総理によつ

【2面に続く】